

木浦の母の愛 広げよう

高知市の生誕地にレリーフ

田内千鶴子さん生誕地に新設したレリーフを、親族らに説明する吉岡郷継さん（右端）（高知市若松町）森本敦士撮影



故・田内千鶴子さん（高知市出身）の生誕100周年記念事業は9日、同市若松町の生誕地記念碑脇に完成した田内さんのレリーフの除幕式などが行われた。2日間の行事は延べ1600人が参加して閉幕。孤児を包んだ「木浦の母」のような「弱者への愛」を、世代や地域を超えて広げる大切さを胸に刻んだ。（藤枝武志）

生誕地記念碑は県民の誕生日で命日でも有志の手で1997年ある10月31日に献花式に建立。以来、田内さんを行っている。

ただ、参加者は減少傾向。そこで「田内さんの業績を広く県民に

笑顔を田内さんを描いたレリーフはブロンズ製で縦60センチ、横43センチ。

知ってもらおう」と、記念事業実行委員会の吉岡郷継事務局長（71）が1年がかりでレリーフを製作し、設置した。

同市の県民文化ホールではノンフィクション作家の山崎朋子さんが「田内千鶴子の生涯の意味するもの」と題して講演。バイオリン奏者の丁讀宇（ジョンチャヌ）さん、ソプラノ歌手の田月仙（チヨンウォルソン）さんらによるコンサートも行われた。

高さ約1.5メートル、幅約1.3メートルの碑にはめ込んだ。この日、献花式と合わせて除幕。じっと見つめた長男の基さん（70）は「（面影は）九十九パーセント」と太鼓判。「点はだいぶおまけをもらいました」と照れた吉岡さんと握手を交わした。

約150人が出席した献花式では、田内さんの心を受け継ぐという県民の声が相次いだ。「田内さんは世界に誇れる。若い世代に伝え、後に続く人が育てば」「100周年が、孤児のいない社会を目指すスタートになれば」

吉岡さんは「田内さんの弱者への思いに触れる、そんな場が記念行事を通してつくれたのではないか。弱者を思いやる姿勢が『世界孤児の日』制定の実現にもつながると思う」と手応えを感じていた。